

公開実用 昭和59—7938

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 実用新案出願公開  
⑪ 公開実用新案公報 (U) 昭59—7938  
⑫ Int. Cl. 3 識別記号 厅内整理番号 ⑬ 公開 昭和59年(1984)1月19日  
F 16 F 1/44 15/00 7111—3 J 6581—3 J  
審査請求 未請求

(全 頁)

54 ダンバ部材 72 考案者 山田隆夫  
21 実 願 昭57-104159 横浜市神奈川区神大寺828の3  
22 出 願 昭57(1982)7月9日 73 出願人 日本鋼管株式会社  
72 考案者 千田信彦 東京都千代田区丸の内1丁目1  
青梅市今井一丁目564の5 74 代理人 弁理士 鈴江武彦 外2名  
備2号

Available Copy

## 明細書

### 1. 考案の名称

ダンパ部材

### 2. 実用新案登録請求の範囲

大きな塑性変形能力を有する金属の小片を弾性を有する物質中に均一に混入してなるダンパ部材。

### 3. 考案の詳細な説明

この考案は大きなエネルギー吸収能力を有するダンパ部材に関するものである。

従来高分子材料の高い粘性を利用した粘弹性体がダンパ部材として使用されているが、必ずしも充分なエネルギー吸収能力をもっておらず、また価格も比較的高価なものであった。

この考案は、上記のような実情にかんがみてなされたものであってその目的は大きなエネルギー吸収能力を有する価格の安いダンパ部材を提供しようとするものである。

この考案のダンパ部材は大きな塑性変形能力を有する金属の小片を弾性を有する物質中に均



一に混入したものである。

以下この考案の一実施例を第1図、第2図により説明する。これは例えば鉛或いは銅等の大きな塑性変形能力を有する金属の小片1(カットワイヤ状、平鋼板状、フレーク状等)を弾性を有する物質2(例えはゴム、プラスチック等)に均一に混入して長方形或いは円柱状に成形したものである。これにより物質2は金属1の座屈防止材としての作用があり、金属1の変形性能を十分に発揮させることができる。

このダンパ部材に振動が加わると金属の小片1と弾性物質2が一体となって、金属小片1の塑性変形と弾性物質の弾性変形により振動エネルギーを効果的に吸収する。

なお、この実施例のように個々に小さいブロックに成形することなく、大きなブロックに成形し所望の大きさに切断して使用するようにしてもよい。

この考案のダンパ部材は上記のようなもので、大きな塑性変形能力を有する金属の小片を弾性

を有する物質中に均一に混入するだけのもので  
あり製法も簡単で価格も安く、その上、上記金  
属の小片と弾性物質が一体となって大きなエネ  
ルギーを吸収することができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

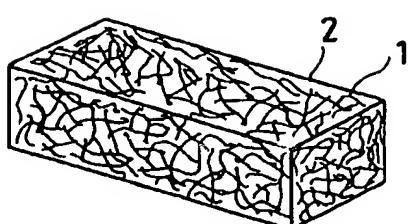
第1図及び第2図はそれぞれ形状の異なるこ  
の考案の一実<sup>サ</sup>例を示す斜視図である。

1 … 金属の小片、2 … 弾性物質。

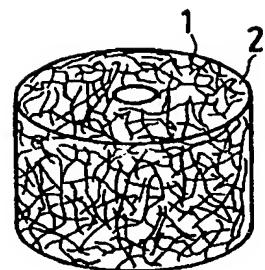
出願人代理人 弁理士 鈴江武彦

公開実用 昭和59- 7938

第1図



第2図



384

実開59-7938

出願人 日本钢管株式会社

代理人 鈴江 武彦